

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

はす
↓ 開花した古代蓮



平成16年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
 - 1/3~1/4 年始挨拶
 - 2/3 大節分会
 - 2/15 涅槃会
 - 3/14 大般若会/大施食会法要
 - 3月中旬 筆供養法要
 - 3/18~3/24 春季彼岸会
 - 4/8 花祭り
 - 7/13~7/16 京浜地区盂蘭盆会
 - 7/27~7/28 子ども禅の集い
 - 8/13~8/16 盂蘭盆会
 - 9/20~9/26 秋季彼岸会
 - 12/8 成道会
 - 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日
書道教室
毎週水曜日
定期坐禅会
隔週水曜日
華道教室・梅花講稽古

ほんどうゆかしたかいしゅうこうじほうこく

本堂床下改修工事報告

本堂床下改修工事が六月初旬に行われました。当寺の本堂は室町だいえい時代の大永二年（1522）に奥平より移転再建されて以来、火災や戦災に遭うことなく現在に至っております。写真でも分かると思いますが、その床下の根太は丸々一本の木がそのまま使われております。

今回はその床下の補強修繕工事が行われましたことを報告いたします。工事請負は吉井町長根の上ふしよく原建築さんに依頼。特に腐食を取り除き、根太への負担を軽減させ、本堂の震災などへの耐久性を増やしました。



↑ 発見された長刀。（画像にありませんが）柄は史実通り当寺のモクの木だと考えられます。

室町時代から本堂を支えてきたクリの一本の根太。→



また、今回の工事中に江戸初期の長刀（駿河国藤原盛命作）が発見されるというありがたい「おまけ」もありました。この長刀は向井家文書の「秘伝しんひろく真秘録」の中の記述に出ている江戸末期の吉井打毀し騒動でうちこわ十六世住職機山学禪大和尚が使用したと考えられます。「真秘録」の記述の裏付けだけでなく、当寺及び地域の歴史を考える上でも大きな発見となることは間違いないかと思われま



じしへんさんじぎょうかんぽ

寺史編纂事業勧募のお知らせ

当寺報『山雲水月』紙上でも度々紹介いた
しました、寺史の編纂作業が佳境を迎えつつ
あります。平成13年11月に寺史編纂室が、外
園豊基早稲田大学教授を監修にお迎えして発
足。以来二年半以上の月日が流れました。

編纂委員各氏の御尽力も賜り、予定より早
く発刊の見通しが立つ運びとなりました。そ
の件につきましては、総代会及び役員会を開
催し話し合った結果、仁叟寺史発刊にあたり
檀信徒の皆様にお勧めをお願い申し上げる次第
となりました。勧募額は一口五千元。勧募頂

→寺史調査
風景（於、
向陽寺様）



そうてい

いた方には仁叟寺史を一冊贈呈する予定です。
ほか、複数冊入用の方は当寺までご一報下さい。
また、仁叟寺史の檀信徒の項にて、現時点での檀
信徒戸主のご芳名も記載する予定です。宜しくご
理解ご協力のほど、お願い申し上げます。



↑ 第11回寺史編纂会議の様子

第十一回仁叟寺史編纂会議が去る五
月一日（土）に、編纂委員十三名にご

寺史編纂室通信-9-

参集いただき、当寺欣光閣にて開催されました。会議
では寺史の具体的な進展などを協議。来年度中での発
刊に向け、早期の原稿の提出などを確認いたしました。
また、当寺は町の史跡（仁叟寺境内建築物ならび
に古文書）に登録されておりますが、その登録方法が
あまりにも大まかであるため、併せて細分化し、項目
ごとの表記に変更し、町教育委員会に書類などを提出
することも決定いたしました。

ほか、写真班の三名には一日以降三日間、当寺に來
て頂き今まで撮影した写真の整理もして頂きました。
委員の皆様のお協力に感謝申し上げます。

総代人交代のお知らせ

今年度より、当寺総代人の
三木利次氏（黒熊）が引退し、後任
に宮澤二三夫氏（白石）がその任に
あたることとなりました。

三木氏は、40年近くもの多年に亘
り仁叟寺役員、総代人として
寺門興隆や檀信徒の親睦融和に務め
られました。長い間、お疲れ様でし
た。

新しく総代人になった宮澤氏も多
年に亘って役員を務

めまた、藤岡市の教育委員や藤友
会の会長なども務められ、社会的
にもご活躍されております。

当寺の護持興隆のため、ご尽力
賜りますようお願い申し上げま
す。

また、総代人退任及び就任にあ
たり、境内に『生飯台』を建立頂
きました。全ての精霊、鬼神、餓
鬼などに生飯（食事）を供える台
です。毎日、小鳥が来ておりま
す。



↑ 施しの精神を伝
える「生飯台」

仁叟寺探索-7-

今回の探索では、仁叟寺の寺号額と山号額を紹介いたします。寺号額は「仁叟禪寺」とあり本堂に、山号額は「天祐山」とあり山門に掲げております。

いづれも揮毫主は東皐心越禪師。縁起達磨で名高い高崎少林山達磨寺の開山で、水戸黄門で有名な水戸光圀公が帰依した中国僧（明からの帰化僧）として知られております。



じごうがく じんそうぜんじ
↑ 寺号額「仁叟禪寺」



さんごうがく てんゆうざん
↑ 山号額「天祐山」

東皐心越禪師はまた、当時衰退していた日本の伝統音楽楽器である琴の普及にも努められました。ほか詩作や書画にも優れた才能を発揮されたと伝えられており、江戸期を代表する能書家であります。来寺された際には是非ご覧下さい。



↑ 参禅会に参加された皆さん

仏教経営フォーラム参禅会

今年で八年目となる仏教経営フォーラムの参禅会が、去る五月二十九日（土）～三十日（日）にかけて当寺で開催されました。武井昭高崎経済大学教授が中心となり、坐禅や禅の精神と現代経済の関係や応用などの講義、作務（清掃の意）など、一泊二日の坐禅合宿を九名の参加者と共に修行いたしました。

仏教経営フォーラムは、仏教思想による日本改革をめざすゆるやかな自由組織で参禅会などを中心に活動している団体です。来年も同時期に行う予定でありますので、興味のある方は是非ご参加ください。

ときめき散歩の会

仁叟寺参拝



↑ 住職の説明に熱心に

去る六月十八日（金）に、「ときめき散歩の会」の会員の皆様が当寺に立ち寄り参拝いたしました。同団体は群馬県の財団法人、長寿社会づくり財団の団体で、県内の六十歳以上の高齢者の方を対象として、名所や旧跡の散歩道を歩く会を年二～三回ほど開催しております。

今回は吉井町の名所や旧跡を訪れ、仁叟寺以外にも多胡碑、法林寺などを回りました。人数が当初の予定より倍ほど多く約百名近くの参加者が集まり、午前午後の二班に分かれて散歩を行いました。

一行は本堂にお参りした後、住職の説明を聞いた後、境内で休憩をしたりして散歩を満喫いたしました。

とくべつきこう

【特別寄稿】

ばいかこうこういん

梅花講講員

いのうえ

井上あやめ



ばいかりゅうごえいか

平成十三年の仁叟寺報『山雲水月』に梅花流御詠歌の講員募集の記事を読ませて頂きました。その頃、私の姉は重い病に冒されておりましたので、不安と苦痛の毎日でした。そんな中、何かにおすがりしたい、救って頂きたいと祈る心にて梅花講に入講させて頂きました。

仁叟寺住職夫人でいらっしゃる、講師の恵津子先生には笑顔を絶やさず何よりも和を大切に優しく御指導して頂き、自然に和やかな気分になって参ります。姉の見舞いにも穏やかに接してやれる様になれました。姉はその年の夏、静かに西方浄土へと旅立って行きました。四十九日の法要には、恵津子先生に特別に特訓をして頂き、

追弔御和讃を、三回忌にあたる今年は追善供養御和讃を、それぞれ唱えさせて頂きました。

↑ 梅花講奉詠風景-1- 釈迦御生誕會（花祭り）

御詠歌は悲しみを癒す為だけではなく、慶祝御和讃、結婚讃歌、報謝御和讃など人の世の慶びを、格調高く感謝の心を込めて詠われているのも多くあります。奉詠といたしましては、平成十四年度は年中行事の他に、龍源寺晋山結制式、第四十五回群馬県梅花流大会（於、草津温泉）が行われました。また、平成十五年度には、伊香保温泉での研修会はじめ副住職の佛前結婚式、第四十六回群馬県梅花流大会（於、桐生市）などが行われました。今年度には来月五日に初めての試験が高崎市の大雲寺様で行われる予定となっております。

これからも、恵津子先生はじめ講員の皆様と共に梅花流御詠歌を唱えさせて頂こうと思っております。



↑ 梅花講奉詠風景-2-

りゅうげんじだいせじきえけんこかげさんごきとうえ 龍源寺大施食會兼蚕影山御祈禱會

行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

梅雨真っ只中ということで、蒸し暑い日が続いております。住職を務めます龍源寺の廻りの田んぼも田植えが終わり、これから夏を迎えるそんな今日この頃であります。

さて、仁叟寺報『山雲水月』も今号で十号となりました。今回は梅花講の井上あやめさんに寄稿をして頂きました。どうもありがとうございました。他にも、文章を募集しております。是非、当寺もしくは副住職まで御一報下さい。

また、今年で二十三回目を迎える子ども坐禅会の参加者も募集しております。併せて宜しくお願い申し上げます。



↑ 境内に迷い込んだカブト虫